

# 実績報告書

## 事業の実績

### 【2020年】

1. 8月21日（金）学生異文化交流会に向けた第1回検討会の実施 参加者7名（116E教室）
2. 11月13日（金）学生異文化交流会に向けた第2回検討会の実施 参加者7名（116E教室）
3. 11月25日（水）「第1回 日中学生異文化交流会」の実施 参加者10名（1142教室）

### 【2021年】

4. 2月19日（金）「第2回 日中学生異文化交流会」の実施 参加者6名（13A教室）
5. 3月4日（木）「第3回 日中学生異文化交流会」の実施 参加者2名（13A教室）

## 具体的な成果

この事業の目的は、日本・中国・台湾学生間の対話の「場」を提供し、相互に文化的な理解を深めながら、日本語と中国語の交流を促進させることにある。主に2020年はこの対話の場である「日中学生異文化交流会」の実施へ向けて、ゼミ生を中心とした検討会をおこなった。どのような交流会にすれば、日本・中国・台湾の学生間の異文化理解や交流を活性化させることができるかを議論した。各学年の授業で吸収した言葉を気軽にアウトプットする機会が少ないというのが、学生の中国語学習におけるネックとなっており、交流会では間違いを恐れることなく、身近な話題を簡単な言葉で表現するような内容にすべきだという方針を確認した。このような議論を踏まえて交流会のコンセプトを決定し、計3回の異文化交流会を実施した。

交流会では、中国語を用いた自己紹介のあと、レジュメやカードなどによってアニメや映画などの共通話題を提供し、それに沿って積極的に言語交流を行った。より話しやすい環境をつくるため3人ほどの小グループを組んで、話し相手を入れ替えながら交流するように心がけた。中国語の習得度に応じてグループを編成するように留意し、教員を含む中国語話者をなるべくグループの中に配置するようにした。

具体的な内容として、第一回交流会のテーマは「自己紹介とアニメ文化を語る」で、①自己紹介（名前、学年、趣味）②日常会話（好きな曲、アニメ、映画、小説、ファッションなど）の内容で実施した。また、東アジア学科の李珊教授をお招きして中国語で講話してもらい、学生たちのリスニング力向上のための機会とした。第二回交流会のテーマは、「自己紹介と中国語の勉強方法のシェア」とし、①自己紹介②発音の復習③中国語の勉強方法のシェア（例：教材や辞書の使い方、学習アプリの有効性について）④リスニングの内容で実施した。

第三回交流会のテーマは、「中国語アニメの日本語への通訳」として実施した。具体的には児童向けのアニメを中国語で鑑賞しながら、その場で日本語に訳していく作業を行った。

コロナ禍のため学外でのフィールドワークや、学外講師の招聘などの活動は中止を余儀なくされたが、母語を乗り越えておこなった小さな対話の「場」での体験が、学生諸君の日々の学業に還元されていくような仕組みづくりを創生できたと考えている。